

# 余野川ダムの建設休止にともなう河川の景観デザイン

- 要旨 -

高知工科大学 社会システム工学科  
 景観デザイン研究室  
 1070478 伊藤 靖

## 1. 背景

昭和 55 年度、淀川水系の一つである余野川に余野川ダム建設事業の実施計画調査が始まった。余野川ダムとは、洪水調節、流水の正常な機能の維持および水道の目的をあわせもった多目的ダムとして計画されたものである。

またそれに伴い平成 7 年度には、湖畔沿いに巨大な水面を特徴とした都市計画事業『水と緑の健康都市』が決定し、平成 10 年度に一部造成工事が始まった。水と緑の健康都市は、北大阪北摂山系に属する箕面北部丘陵に位置し、水と緑に恵まれた環境を有するとともに、第二名神高速道路や国道 4 2 3 号バイパスが整備されることから交通利便性の高い地域となることを見込まれている。本地区では地域特性を活かし、「多世代共生」、「環境共生」、「地域共生」をまちづくりのテーマとした、世代を超えて誰もがいきいきと暮らせるニュータウンの実現を目指している。

しかし、治水・利水等の必要性や緊急性はあるものの社会経済情勢の変化や事業費増加などによってダム建設の実施が困難となり、平成 16 年、事業は当面実施しないということになった。

そこで今回は、ダム建設により失われた河川を再び甦らせることになった。デザインの対象地は、大阪府箕面市の北部に位置する自然に囲まれた止々呂美地区の河川である。そして、今回の河川デザインでは、『水と緑の健康都市』のコンセプトを尊重する。

## 2. 目的

ダム建設が休止となり、『水と緑の健康都市』にとって魅力となるはずであった水面は失われた。そこで、今回はダムに変わる付加価値を創出するため河川を整備する。また、ここでは人と自然が共生する河川とし、水辺を歩きかう人の流れも創造していく。都市デザインの視点から、まちの骨格となるような河川をデザインしていくことにする。

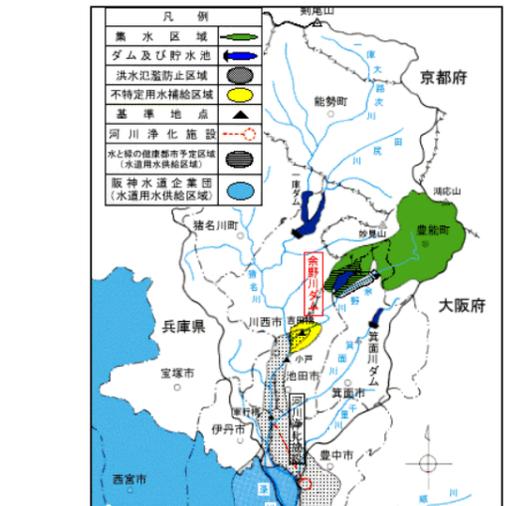


図1 ダムの位置 出典：猪名川総合開発工事事務所 HP



図2 『水と緑の健康都市』イメージ図  
 出典：水と緑の健康都市 HP

## 3. 現況と課題点

設計対象地は、現況では図 3 のように、ダム建設による仮設工がそのまま残され、導水トンネルが貫通しないまま取り残されている。そして必要なくなった巨大法面は、都市と河川の繋がりを妨げている。



図3 対象地下流の現況写真

### 問題点

1. 建設途中の導水トンネル
2. 北西に位置する巨大な法面
3. 谷の日照条件
4. 上流河川との一貫性がない
5. 仮設の撤去
6. 荒廃林の整備

## 4. 河川の景観デザイン

### 4-1. デザインコンセプト

『流れ』 + 『変化』

水は生命が誕生する前から脈々と流れ続け、人間にとってはかけがえのない存在である。水の流れる様は実に美しく、人々の心を魅了してやまない。

『流れ』には様々な流れがあり、水の流れの他に人の流れ、時の流れ等がある。人類の歴史からみても分かるように多くの文化が川沿いで生まれた。言わば、川の周辺では常に賑わいが生まれ、人々が集うようになったのである。これは、流れの中でも人の流れにあたる。また、刻々と変わり続ける時の流れの中で川はそれを水面に映し、様々な表情を我々に見せてくれる。これは、時の流れと言えよう。いずれも川と深く関係しており、『流れ』という言葉は重要な意味を表している。

そして、それらを一層魅力的に演出するものは『変化』である。人は、一定のものを見続けると飽きてしまい関心が薄れてしまう。そこで何らかの『変化』を与えることにより、人間の五感をさらに刺激し、単調な流れを絶っていく。



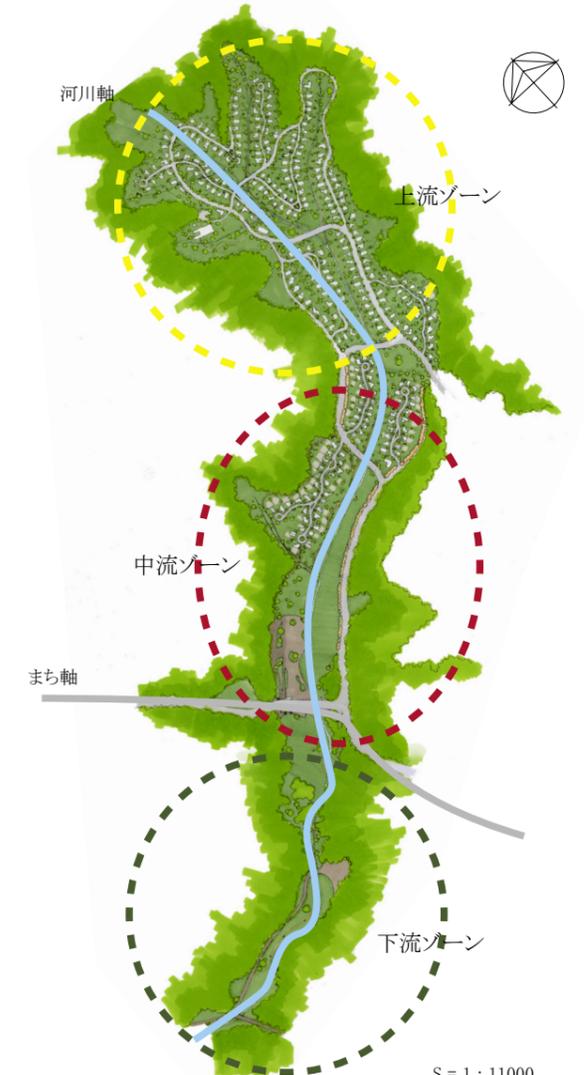
図4 水の流れ



図5 四季の変化



図6 川と人の関係



S = 1 : 11000  
 図7 ゾーニング図

### 4-2. ゾーニング

対象河川を図 7 に示す 3 つのゾーンに分けてデザインする。

下流ゾーン：豊富な自然体験ができるゾーン。キャンプや散策等を楽しむことができる。

中流ゾーン：河川公園を中心としたゾーン。広々とした空間で水辺を楽しむことができる。

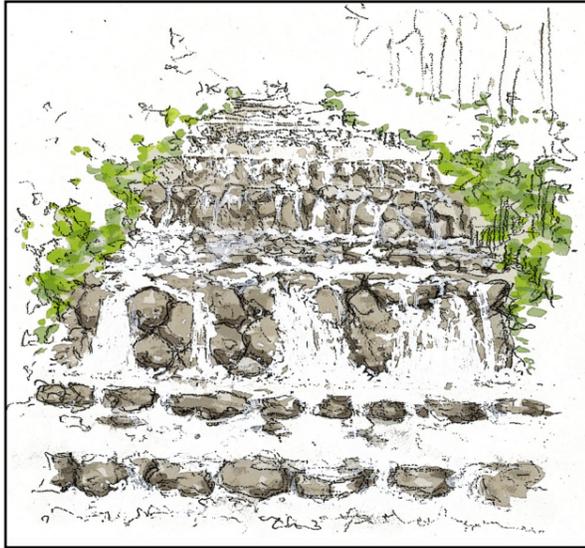
上流ゾーン：川とまちが近接するゾーン。川沿いへ思わず足を運んでしまうようなエリアを創造する。

### 4-3. 整備方針

整備方針は次の 7 項目である。

- ・ 住居と川を対面させる。(清潔感のある河川の創造)
- ・ 地形に合った河川線形にする。(曲線的な線形)
- ・ 人が川に接することのできる空間を創造する。
- ・ 生態系を保護する。
- ・ 全域遊歩道の整備をする。(気持ちのいい水辺の創造)
- ・ 荒廃林の整備をする。(明るい紅葉樹林帯)
- ・ 自然素材を利用する。(木、石、土など)

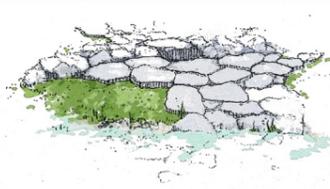
4-4. 河川デザイン



① 階段工により生まれたカスケード（階段状の水の流れ）。今回の河道デザインの基本となる流れ。野面石の間を縫うように流れていく。

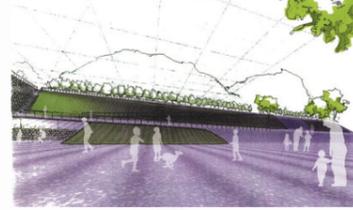
② Stone Garden 【on the stone】

工事によって出た、大量の採石を効果的に散りばめた石の広場。キャンプ場としても利用できる。



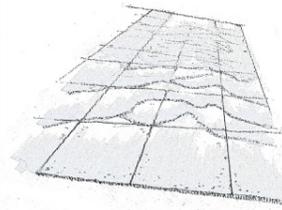
③ Water Table 【on the water】

上流域に整備された親水公園。水位の違いや水盤素材の違いによって変化が生まれる。石盤の上をうっすら水が流れる仕組み。



④ Board Hill 【on the deck】

無数の板を組み合わせてできたデッキの丘。このまちの中心的な河川公園として利用してもらう。



【 on the ... 】

下流から上流の拠点となる地点に配置。河川を一体的にデザインするという意味合いで一貫性を持たせた。

様々な自然界のマテリアルを対象に、『～の上で～（行為）をする』という行為自体も指定しない表現とする。これには、利用者が活用方法を見出し、利用してもらいたいという願いを込めている。例えば、草の上を歩く・草の上を跳ねる・草の上に寝転ぶ・草の上で遊ぶ等、一つの場所で様々な行為が行われる。三者三様の利用目的があり、それぞれの楽しみ方で各々の時間を過ごす。

⑦ 住居の内観イメージ。大きな開口部から川辺を借景した。ここでは、ゆったりとした時間が流れる。



⑧ 上流ゾーンの川が家に近接する風景。つつい水辺に近づきたくなる空間を創造。



Climber's Tree  
子どもたちが木登りをして遊べるような枝張りののびのびした樹木を配置。

里山管理センター  
里山住居地域に整備した管理センター。ここでは里山の保全や自然学習を補助する役割を担う。

トンネル  
導水トンネルは完全に埋めず、貯蔵庫兼休憩所として再利用する。

里山住居地域  
第二種中高層住居専用地域  
容積率 150%  
建蔽率 60%



② 無数の滝となって水が流れていく。カスケードの表現。



③ 人の流れと川の流れが交わるペDESTリアンデッキ。視点を変えて楽しむ。



④ 荒廃林を整備し、明るい雑木林を目指す。気持ちのいい木漏れ日の中を散策する。



⑤ 春になれば延長約 500m に亘って植栽された桜がまちを一気に彩る。このまちのシンボル。



⑥ 中流ゾーンのイメージ。上流まで住宅地と川との間に遊歩道が続く。



平面図 S=1 : 4000

